



Title	公衆衛生を学ぶ学生として井戸さんに感謝を込めて
Author(s)	白井, こころ
Citation	井戸武實の歩みと追悼集. 2025, p. 26-27
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/100729
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

公衆衛生を学ぶ学生として井戸さんに感謝を込めて

白 井 こ こ ろ

大阪大学大学院医学系研究科社会医学講座・公衆衛生学 特任准教授

井戸さんに初めてお会いしたのは、大阪大学の医学部公衆衛生学講座で博士課程の大学院生として、特掃検診に参加させていただいた機会でした。当時、高鳥毛先生、逢坂先生、黒田先生方にご指導いただき、学生として西成の特別清掃事業や結核健診事業のお手伝いに参加させていただき、HESO（HEALTH SUPPORT OSAKA）の活動にも少しだけ関わらせていただきました。お世話になるばかりでしたが、医療・保健・福祉の連携を学び、健康の社会的決定要因（Social Determinants of Health）の視点から、高齢者の健康長寿や健康格差について研究したいと考えていた私には、まさに公衆衛生制度・活動の原点を学ばせて頂く思いでした。

当時、医師が考える予防医学の視点と、保健師が考える健康教育や生活指導の視点、社会福祉職が考える生活支援の視点など、異なる専門職の視点や連携体制に対する考え方の違いに悩んでいた私に、井戸さんは思い悩んで立ち止まるより、活動して歩いていった後ろに、道ができていくことを、いつもの満面の笑顔でカラリと示してくださいました。本当の意味で、対象者や患者を中心にした医療保健福祉をはじめとした多職種の連携や、民間組織と行政の連携の在り方など、井戸さんの活動やその調整力から学ばせて頂くことは多く、心より感謝しています。

阪大公衆衛生学講座を卒業後、教員としても大阪大学や琉球大学の医学生、看護学生、福祉専攻の学生をはじめ、多くの学生の研修の受け入れでも、井戸さんには本当にお世話になりました。海外からも、ハーバード大学や英国の UCL 大学など、共同研究者の来訪や研修の機会には、よく井戸さんにご相談して助けていただきました。井戸さんにコーディネートいただき、大阪社会医療センター、大阪市西成区役所あいりん分館、大阪府西成労働福祉センター等での研修、特別清掃事業や大阪自彊館での DOTS の見学、禁酒の館、緊急夜間宿泊所、サポーターハウス等々、様々な機関や場所で学生、研修生等の受け入れをしていただきました。関係者の先生方、皆様に感謝するとともに、どんな時も明るくポジティブな回答を下さり、きめ細やかに各所調整の上受け入れて下さった井戸さんに、感謝してもしきれません。

2024 年 2 月に、大阪大学公衆衛生学講座を高鳥毛先生と一緒にご来訪下さった後に、別途ご連絡をいただき久しぶりに 2 人でお話したのが、直接お会いした最後の機会になってしまいました。ご趣味のことや、これからの活動のことなど、やるべきことが山のようにあって毎日じっとしている暇がないと、笑顔でお話されていた姿が頭から離れません。折に触れ井戸さんの活動の成果や、掲載記事などをマメにお送りいただき、いつも誠実できめ細やかなご対応に、学ばせて頂いていました。阪大にて学生、研究員、特任助教として奉職し、留学や沖縄赴任を経て、現在また大阪大学医学部公衆衛

生学講座にて准教授、特任准教授（常勤）として勤務している間、考えてみると 20 年以上井戸さんにはお世話になりっぱなしでした。近々ぜひお会いしましょうと、ご連絡をいただいた数日後に、井戸さんの突然のご逝去を伺いショックでした。最近、恩師である多田羅浩三先生の訃報にもふれ、お二人にそれぞれ学ばせて頂いた公衆衛生制度・活動の原点について改めて考えると共に、ご指導いただいたことに感謝の気持ちを新たに致しました。関西の公衆衛生活動のために、大切なお二人が続いて旅立たれてしまったことが、残念でなりません。

井戸さんが、学生たちに見せて下さった結核対策や路上生活者支援の現場、伝えて下さった想いは、誰一人取り残さない健康な社会の実現を目指す全ての専門職と、保健医療福祉を学ぶ多くの学生の心に残り、原点となる機会や出会いをつなげて下さったと思っています。古くて新しい課題として複雑化する結核対策を巡る状況の中、井戸さんが心血を注いで進めてこられた活動、灯して下さいった明かりが、つながり続けることを願っております。

いつものよく通る大きな声で、おっちゃん達に声をかけながら、西成の町を歩く井戸さんにまたすぐ会えそうな気がしてしまいます。エネルギーでいつもポジティブな井戸さんの笑顔が忘れられません。心よりご冥福をお祈りいたします。



研修のたびに写真を撮って送ってくださった井戸さん：2008 年大阪社会医療センターにて撮影
後列左から白井こころ、ベン・セリグマン（当時フルブライト研究生・現スタンフォード大学老年内科フェロー）、豊田泰弘（当時大学院生、現市立豊中病院乳腺外科部長）、63 歳当時の井戸武實さん（当時 NPO 法人 HESO 常任理事兼事務局）、前列は DOTS ナース〔当時大阪社会医療センター看護師の吉田春枝さん（左）と橋川桂子さん（右）〕（写真提供：白井こころ）